

目標（1）協働推進



ずっと住み続けたいまちを

みんなと一緒につくります

この施策が目指すまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのために自分ができることで、まちのために活動することで、みんながゆるやかにつながっています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に参加・挑戦でき、将来のまちづくりを担う人材が増えています。

この目標分野の現状と課題

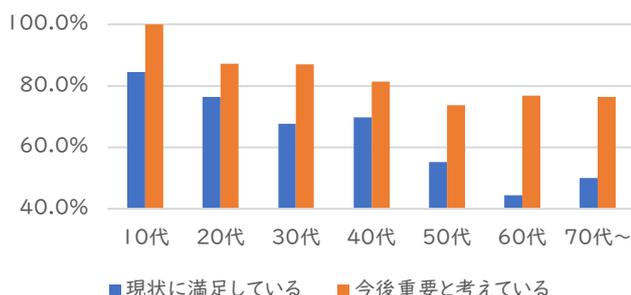
《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にあります。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、10代・40代でまちへの愛着が他の年代より低い。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多い。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになりました。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化しています。

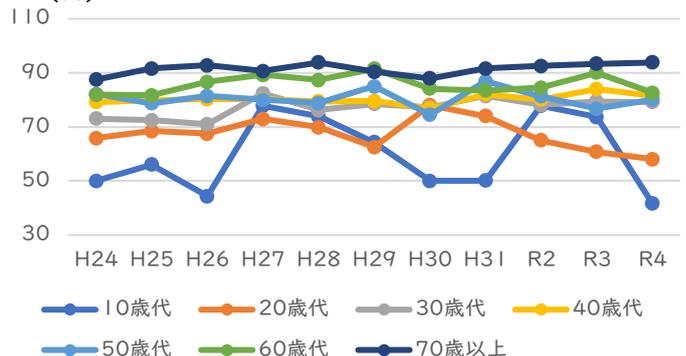
《課題》

- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要となります。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要となります。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合 (%)



※出典：高浜市市民意識調査

こんなことに取り組みます

■まちの課題や目標を共有します

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

■誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築など、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・定年延長など地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。

■まちづくりに気軽に関われる仕組みや風土をつくり、人財を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブの付与、活動の発表会やコンテストなど、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。
- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考え、実現していきます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
高浜市が目指すまちの目標（キャッチフレーズ）を知っている人の割合		▶
最近1年間で高浜市のために活動をしたことがある人の割合		▶
高浜市の未来を創る市民会議メンバーで実施した活動の数（年間）		▶

【関連する個別計画等】

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区)

目標(2) 多文化共生



お互いを理解し、支え合い、
誰もが地域の一員として活躍できるまちをつくります

この施策が目指すまちの姿

- ◇日本人市民と外国人市民がお互いの国籍や文化の違いを理解し、認め合い、外国人市民も地域の一員として助け合い、活躍しています。
- ◇性別や考え方の違いなどの多様性を理解し、認め合い、高浜市に暮らすだれもが、お互いを尊重し合えるようになっています。

この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆年々外国人住民の方が増加し、総人口に占める外国人割合が8%を超えるなど愛知県内自治体で最も高い人口比率（令和3年6月末時点）となっています。
- ◆令和3年7月に多文化共生コミュニティセンターを開設し、外国人住民に対する一元化相談窓口の設置や初期日本語教室などに取り組んでいます。
- ◆外国人と日本人の相互理解の意識に差が生じています。
- ◆性的マイノリティの方々をはじめ、すべての市民の人権を尊重し、多様な生き方を互いに認め合う社会の推進のため、令和4年4月よりパートナーシップ宣誓制度を制定しています。

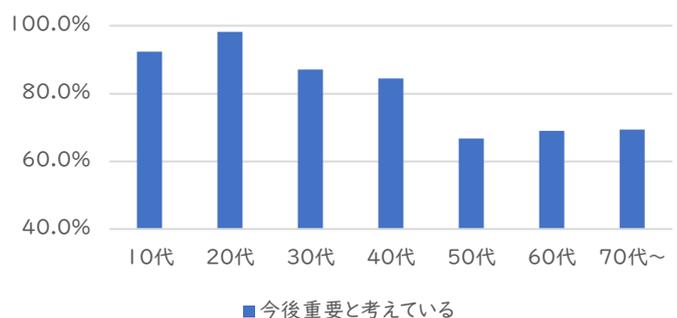
《課題》

- ◇日本語も母語もたどたどしい世代の発生や多国籍化による情報発信ニーズの多様化といった新たな課題の発生や今後は外国籍住民の高齢化など、今後、さらなる課題が発生してくることが想定されます。
- ◇LGBTをはじめとしたさらなる人権尊重の意識啓発を積極的に取り組んでいく必要があります。

外国人住民の推移



多文化共生に関する意識



※出典：高浜市市民意識調査

■多様性を認め合い、誰もが暮らしやすい環境をつくります。《環境づくり》

- ・国籍に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、市からの情報を多言語及びやさしい日本語で提供するとともに、外国人市民の状況把握や相談支援等を充実します。
- ・外国人市民が生活していくために必要な日本語やルールなどを学ぶ機会を充実します。
- ・性別や考え方の違いなど関わらず暮らしやすい環境をつくるため、パートナーシップ制度など、価値観を認め合う環境を整えます。

■多文化共生社会の実現に向け、一人ひとりの意識を高めます。《意識向上》

- ・外国人市民と日本人市民の相互理解や多文化共生についての理解を深めるため、日本人市民と外国人市民の交流機会や学習機会を充実します。
- ・多文化共生コミュニティセンターの機能強化を図り、さらなる活用を促進します。
- ・多様性を認め合う多文化共生に関する講演会や研修会の実施などによる意識啓発に努めます。

■外国人市民の社会参画を促進します。

- ・外国人市民が主体的にまちづくり活動に関わることができるよう、外国人市民へのまちづくりに関する情報提供と参加促進に努めます。
- ・外国人市民と地域をつなぐ人材育成および人と人をつなぐネットワークを構築します。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
多文化共生コミュニティセンターへの来所者数		▶
最近1年間で外国籍の方と話したことがある人の割合		▶
市の審議会等の委員となっている外国籍の方の人数		▶

〔関連する個別計画等〕

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市女性活躍推進計画

目標(3) DX(デジタルトランスフォーメーション) 推進



時間と場所を選ばない行政サービスを提供します。

この施策が目指すまちの姿

- ◇市民が時間と場所を気にせず必要な手続きを行うことができています。
- ◇業務の改善・効率化で浮いた人的資源を市民一人ひとりに寄り添ったサービスの強化に繋げることができています。
- ◇各種相談や面談が必要な手続きなど、どうしても市役所に行かなければならない時でも、効率的なデジタル窓口が実現しています。
- ◇市民が安心して情報提供できるセキュリティシステムが構築されています。

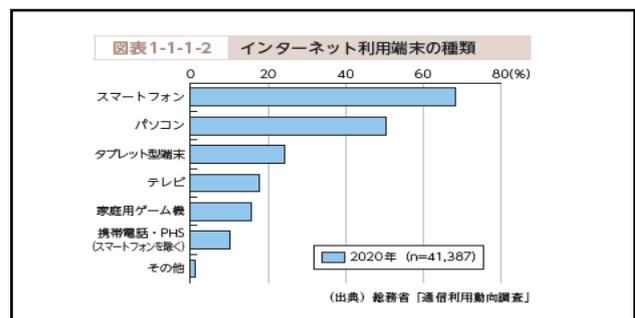
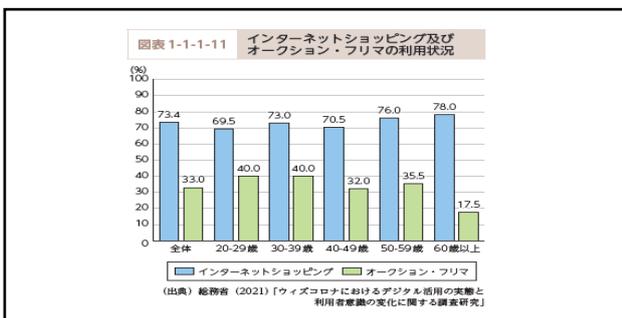
この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆国の「自治体デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画」により全ての市町村に対して足並みを揃えて「情報システムの標準化」や「行政手続きのオンライン化」が求められています。
- ◆インターネットサービスの利用者が各世代で増加しています。
- ◆セキュリティ脅威(情報搾取や不正行為、詐欺、情報漏洩など)が高度化、複雑化しています。

《課題》

- ◇情報システムの標準化に併せAIやRPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)などの新技術の導入により業務の効率化や適正な執行に図る必要があります。
- ◇市民が時間と場所を選ばず行政サービスを受けられるよう行政手続きのオンライン化を進める必要があります。
- ◇各種相談や面談が必要な手続きなど、どうしても市役所に行かなければならない時、市民の負担軽減や利便性の向上を図るため、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現が必要となります。
- ◇市民情報を守るためのルールづくりや情報管理体制など、セキュリティの強化を進める必要があります。



■行政サービスのオンライン化を実現します。

- ・引越や子育て関係、介護関係などの手続きについて、マイナンバーカードを用いた手続きを含め、普及率の高いスマートフォンでも手続きできるよう行政サービスのオンライン化の実現に取り組みます。

■情報システムの標準化と効率化を実現します。

- ・住民基本台帳、介護保険、税、国民健康保険、年金、選挙人名簿など市民に身近な手続きについて情報システムの標準化と事務の見直しに取り組みます。
- ・他の自治体と連携しながらAIやRPAなど、新技術による業務効率化の実現に取り組みます。
- ・計画的なDXの推進、人材の育成に取り組みます。

■書かない・待たない・行かないデジタル窓口を実現します。

- ・申請書記入の負担軽減、関係窓口の連携強化による待ち時間の解消、証明書自動発行機（行政キオスク端末）の普及拡大により書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現に取り組みます。

■市民情報を守る情報管理体制を実現します。

- ・DXの推進にあわせた新たなルールづくりとして高浜市個人情報保護条例の見直しに取り組みます。
- ・全ての職員が個人情報保護、情報管理スキル等が向上するよう研修・教育体制の構築に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
オンライン申請が可能な手続き数	35 手続	135 手続
窓口事務取扱件数（市役所来庁者数）	70,757 件	35,000 件

[関連する個別計画等]

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区)

目標(4) 情報発信・シティプロモーション



まちのことを知って、

高浜市を応援したいという思いを育みます

この施策が目指すまちの姿

- ◇情報を受け取る側の立場に立ち、まちの情報がいつでもどこでもわかりやすく得られるようになっています。
- ◇「知っていてほしい」情報が、確実に市民の皆さんに届くようになっています。
- ◇まちのことが多くの人に伝わり、高浜市を「応援したい」、高浜市に「行ってみたい」「住んでみたい」という人（ファン）が増えています。

この目標分野の現状と課題

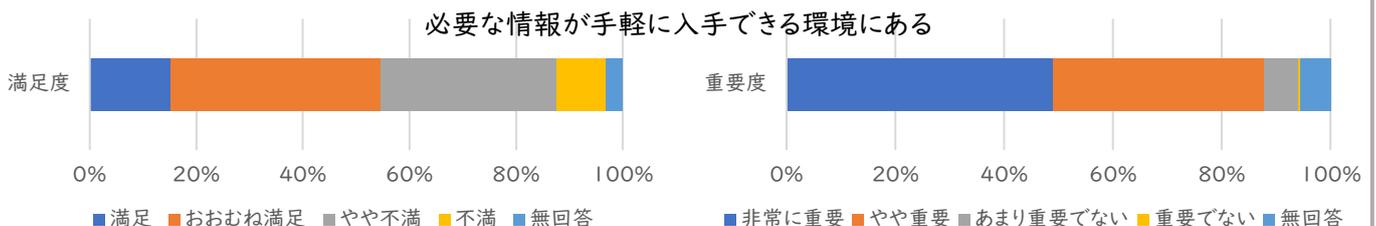
《現状》

- ◆市の情報の入手環境については、40代までは満足傾向にあるが、50代以上は満足傾向にある方の割合が50%を下回っています。
- ◆スマートフォン等の普及など、情報を得るツールが進化・多様化する中、情報の取得方法も紙媒体からデジタルへと変わってきています。
- ◆市の情報は身近に感じづらく、市民にとって興味や関心をもちにくい傾向にあります。
- ◆20代・30代の方に比べ、50代以上の方は、まちの魅力発信はあまり重要ではないと感じています。

《課題》

- ◇市民の関心や社会のトレンドにアンテナを張り、ニーズをくみ取る必要がある他、発信者側の情報発信に対する意識やスキルを向上させる必要があります。
- ◇電子媒体を使いこなせる世代にはより情報が伝わるよう、電子媒体に不慣れな世代に対し情報格差が生じないように、発信する内容や発信媒体の工夫、電子媒体を使いこなせるようになるような取り組みが必要であります。
- ◇高浜市に関わったことがある人など、関係人口の増加を目指し、高浜市のファンを増やしていくことが今後必要となってきます。
- ◇人と人のつながり、コミュニケーションを通じた発信で市民の満足感・納得感を高めていくことも大切です。

《令和3年2月に実施した市民意識調査結果より》



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
満足傾向	76.9%	76.4%	65.6%	62.5%	47.4%	48.6%	47.5%
不満傾向	23.1%	23.6%	34.4%	37.5%	51.3%	48.6%	43.1%

※年齢や回答が無回答の方を除く数値です。

こんなことに取り組みます

■ まちの情報をわかりやすく発信します。(人材育成)

- ・市民一人ひとりが広報マン、まちぐるみで情報を発信していく風土と仕組みを構築します。
- ・職員の情報発信に対する意識とスキルを向上させ、分かりやすい情報発信に努めます。

■ 「知ってほしい」が、確実に届く環境を整えます。(発信方法)

- ・ICT技術の活用など、その時代にあった情報発信媒体を取り入れ、情報の種類や受信者に適した発信方法で、タイムリーな情報提供に努めます。
- ・市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、情報交換を活発に行い、情報のニーズをくみ取るとともに、つながりを通じて情報を発信します
- ・高浜市の情報はここを見ればわかるという情報のプラットフォームを整備します。

■ 高浜市を応援したくなるよう、まちの魅力を高めます。(ファンづくり)

- ・これまで磨き上げてきた地域の資源の可能性を研究し、さらに磨き上げます。
- ・新たな地域資源、魅力の発掘・開発に取り組みます。
- ・市民が高浜市(ふるさと)の良さを再発見できるきっかけをつくります。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
市の情報発信に満足している市民の割合 (%)		▶
市公式ホームページへの年間アクセス件数 (件)		▶
最近1年間で高浜市のことをSNSで発信や友人に話すなどしたことがある人の割合 (%)		▶

[関連する個別計画等]

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市広報戦略

目標(5) 子育て・子育て



多様な主体が子育て・子育てを支えます

この施策が目指すまちの姿

- ◇安心して子どもを産み育てられる環境が整っているまちになっています。
- ◇多様化する生活スタイルの中で、子育て・子育てを通じて家族・地域のきずなを深めていくまちになっています。
- ◇子育て・子育てを支える人材・環境が整えられて、子育てに孤立しないまちになっています。

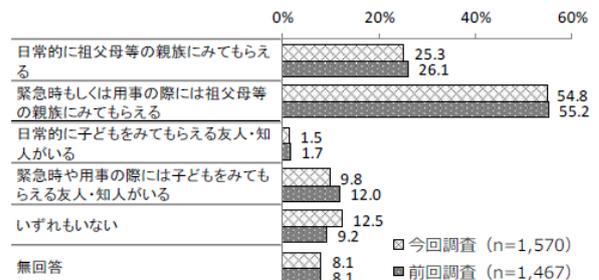
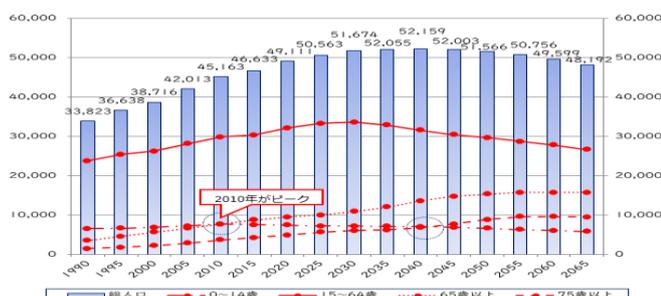
この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆就業者数の増加に伴い女性割合も増加しているため、今後も子育て支援に対するニーズの増加が想定されます。
- ◆将来的には子ども数は緩やかに減少することが見込まれます。
- ◆子育てを手助けする親族や知人がなく、孤立するおそれのある人が約1割程度います。

《課題》

- ◇多様化する子育てニーズに応じた支援が必要となります。
- ◇女性の就業割合の増加による保育ニーズの増加と、子ども数の減少による事業規模縮小とのバランスを考慮した柔軟性のある子育て支援が必要です。
- ◇子育てを支援する子育て・子育てを支援・見守る人材の確保・育成が必要です。
- ◇子育てを頼れる人がいない人が地域の中で孤立することのないように、ICTを活用した、子育て世帯と施設、地域等の多様な関係者をつなげる仕組みを構築していく必要があります。



日頃、お子さんの面倒をみてもらえる親族・知人の有無「第2期高浜市子ども・子育て支援事業計画」より

こんなことに取り組みます

■「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、子育て支援の充実を図り、
待機児童のない保育環境とします。

- ・教育・保育ニーズを適切に把握するために定期的な意識調査に取り組みます。
- ・定期的に更新する「高浜市子ども・子育て支援事業計画」の策定に取り組みます。
- ・教育・保育ニーズに対応した、多様で柔軟な保育サービスの提供に取り組みます。
- ・ニーズに応じた地域子ども・子育て支援事業等の実施に取り組みます。

■子育て・子育てを支える人材の育成を図るとともに、多様な主体が子育てを支える重層的な環境を実現します。

- ・子育て・子育てを支える人材の発掘に取り組みます。
- ・様々な人材が子育てに関わる環境の創出に取り組みます。
- ・ICTを活用して、子育て世帯と施設、地域等をつなげる仕組みを構築します。
- ・子育て中の親子が孤立しないように各種関係機関等が支える環境づくりに取り組みます。
- ・安全で安心できる場所を多くの子どもや保護者が利用できるように取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
待機児童数（幼稚園、保育園、認定こども園、児童クラブ、みどり学園）		0人
ポータルサイトアクセス数		
地域子育て支援施設利用者数（地域子育て支援拠点施設、児童センター、放課後居場所事業）		

[関連する個別計画等]

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市子ども・子育て支援事業計画

目標（6）学校教育

自分・仲間・社会の幸せのために 学び続ける子どもを育みます

この施策が目指すまちの姿

- ◇自ら学び、生きる力を身に付けている子どもが育っています。
- ◇自分も周りも大切にしながら、人・もの・ことに積極的につながる子どもが増えています。
- ◇自分を知り、持ち味を発揮している子どもが自分らしく輝いています。
- ◇なりたい自分に向かって学んでいる子どもが育っています。

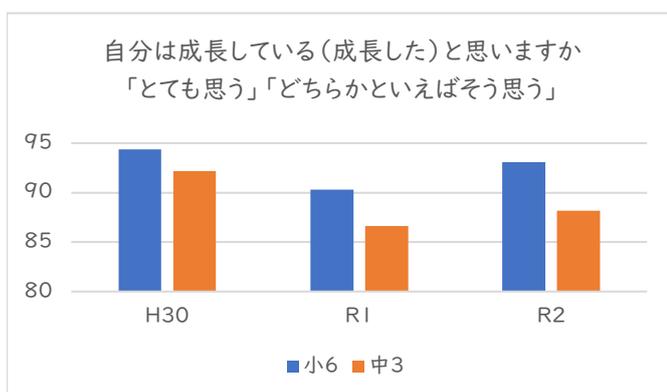
この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆学習指導要領では、教育の普遍の部分（知・徳・体の調和のとれた発達）を大切にすることとなっています。
- ◆教育を取り巻く環境は、情報化やグローバル化の進展など変化が激しい時代にあります。
- ◆小6と中3で比較すると、いずれの年度においても「自分は成長していると思う」生徒の割合が低くなる傾向にあります。
- ◆一人1台端末やICT機器が整備され、学習での積極的な活用が進んでいます。

《課題》

- ◇学校教育では、常に社会の変化に対応した取組が求められています。
- ◇変化の激しい時代においても、試行錯誤を繰り返しながらも、子どもたちが自分らしく生きていく力を育成する必要があります。
- ◇人と直接関わることによさに気づき、多くの人との触れ合いの中で成長していくための取組が必要であります。
- ◇自分の主張だけでなく、相手の意見も尊重し、合意形成を図りながら仲間と共に様々なことに挑戦していく意欲を育む取組が求められます。
- ◇自分のよさを理解し、自己肯定感の向上に向けた取組が必要であります。



【主体的・対話的で深い学びを重視した学習風景】

こんなことに取り組みます

■生きる力を育む質の高い教育活動を実施します。

- ・学習指導要領に即した基礎学力の定着を進めます。
- ・主体的・対話的で深い学びを重視した学習を推進します。
- ・人・もの・こととの関わり合いを重視した教育活動を行います。
- ・キャリア教育の充実に向けた取組を進めます。
- ・道徳教育、情報モラル教育など心の教育を推進します。
- ・一人一人が持ち味を發揮できる集団づくりを推進します。
- ・SDGsについての学習を推進します。

■一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育のしくみを創ります。

- ・異校種間・異学年間の交流を充実し、12年間の学びや育ちをつなげます。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への個別支援の充実に向けた取組を推進します。
- ・小学校において、教科担任制の積極的な取組を推進します。
- ・一人一台タブレットを中心としたICT機器のより有効的な活用を進めます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
「好きな教科がある」児童生徒の割合		▶
「友達と協力した場面があった」児童生徒の割合		▶
「自分には好きなどころがある」児童生徒の割合		▶
「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合		▶

[関連する個別計画等]

◇高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市教育基本構想

目標（7）生涯学習・文化・スポーツ



学びで人がつながり合い

みんなでまちを支える力を育みます

この施策が目指すまちの姿

- ◇たくさんの感動や体験に出会い、「知りたい」「やってみたい」といった知的好奇心や意欲が高まり、学びが活発に行われています。
- ◇暮らしや学びを通じて培われた知恵・特技・経験等を生かし、市民同士の学び合いが活発に行われ、ともに成長しています。
- ◇先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民の共有財産として継承され、地域に息づいています。

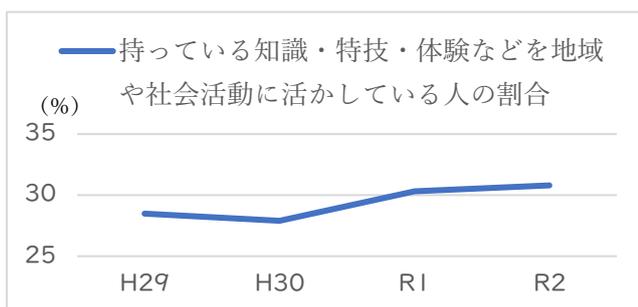
この目標分野の現状と課題

《現状》

- ◆生涯を通じた学ぶ機会について約85%が重要と考えており、知的好奇心や意欲を灯し続ける必要性が認識されています。（出典：高浜市総合計画審議会（第1回）参考資料「施策動向調査について」）
- ◆持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合は30%前後で推移し、微増傾向にあります。
- ◆高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合が減少傾向であり、まちの歴史や伝統・文化に対する関心が希薄になることが危惧されます。

《課題》

- ◇人生100年時代、デジタル技術の進展など社会の大きな転換点にある中で、市民一人ひとりが生き抜く力を身につけ、成長を続けられる機会の創出や環境づくりが必要です。
- ◇持っている力を人づくり・まちづくりに積極的に活かし、学びを通じた連帯感を育てていくことが大切です。
- ◇住んでいるまちのあゆみ、伝統や文化などを知り、「このまちが好き」という想いを高めていくことが重要です。



（出典：「市民意識調査」より）



（出典：「市民意識調査」より）

■「知りたい」「やってみたい」といった想いが高まる取組みを進めます。

- ・「かわら美術館・図書館」を核に、展示・図書（読書活動）・ワークショップなど様々な手法・資源を用いて、知的好奇心、学びの意欲、知性・感性、創造力が高まる取組みを推進します。
- ・子どものチャレンジする意欲を応援し、未来の高浜市を担う人材育成を行います。

■持っている力を人づくり・まちづくりに活かし、人と学びの輪を広げます。

- ・年齢や経験に関わらず、暮らしや学びで培われた知恵・特技などを気軽に活かせる機会を創出し、市民同士の学び合いを推進します。
- ・「する・みる・ささえる」といった多様な観点から、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。

■まちの魅力・自慢を掘り起こし、守り、伝え、育みます。

- ・様々な角度からまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を見る・聴く・触れる機会を設けるとともに、伝統・文化を守り、育む活動を進めます。
- ・新編高浜市誌「高浜市のあゆみ」に掲載しきれなかった先人たちの足跡などについて調査を継続し、後世へ伝え、人づくり・まちづくりに活かします。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2023)	目標値 (2027)
読書相談件数（件）		▶
持っている知識・技能・体験を教えた・伝えたことがある人の割合（％）		▶
高浜市の歴史・伝統・文化に関する企画（行事）に参加したことがある人の割合（年間）（％）		▶

〔関連する個別計画等〕

- ・高浜市生涯学習基本構想・基本計画
- ・高浜市子ども読書活動推進計画